

淡路島の甲虫相*

高橋 壽郎¹

Coleoptera Fauna of Awaji Is., Hyogo Prefecture

Toshio Takahashi

はじめに

淡路昆虫研究会創立 10 周年に機関誌“PARNASSIUS”も No.16 を創立 10 周年記念号として出版された (1976)。筆者はその時“淡路島の甲虫相”を発表して頂いた (p.3-9)。

その後筆者自身も何回か淡路島を訪れ調査採集をやり淡路島新記録の甲虫を得たりした。また淡路島在住の方々による淡路島からの甲虫の記録もかなり多くある。そこで今回ふたたび現時点での淡路島の甲虫相をここにまとめて見ることにした。多くの淡路島産甲虫についての文献からはできるだけその記録を取り入れるようにした。それらの文献については此処での発表を省略させていただき筆者が別途発表している次のものを参照いただきたい (兵庫県産甲虫類に関する文献目録, 1975。同改訂版, 1981。同追加篇 I, 1984。同追加篇 II, 1993—全部で 1,830 篇を収録)。

なにぶんにも筆者の浅学, 不勉強により同定の誤りその他があるかも知れない。それらについてご教示, ご指導いただければ幸いである。

筆者が採集した標本は原則として県立“人と自然の博物館”に保管されている。

末筆にあたり本文発表の機会を与えて下さった登日邦明氏に厚く御礼申し上げます。

淡路島の甲虫類

淡路島に産する甲虫類で現在記録されている科別の種類数と現時点で同島にのみ産すると考えられる種名 (兵庫県下で他に記録の無い種) を記し, 注目すべき種に若干の解説を試みた (種数の括弧内の数は兵庫県産の種類数・番号は便宜的につけたものである) (淡路島産甲虫類の目録はもちろん作成してあるがあまりに長文になるので此処での発表を省略したことを御了承頂きたい)。

1. Family Cupedoidae ナガヒラタムシ科 1種 (2)

前回の報文では記録がなかった。現存するコウチュウ目のうちでも起源がもっとも古く, 古生代二疊紀下部 (約 2 億年前) に遡るものといわれている。今回 1 種淡路島にもいることが記録された (堀田, 1978)。

2. Family Rhyssodidae セスジムシ科 1種 (2)

この科のものは前報以後新しい追加種は見られない。

3. Family Paussidae ヒゲフトオサムシ科 1種 (1)

4. Family Cicindelidae ハンミョウ科 3種 (10)

ヨドシロヘリハンミョウの産が前報以後も確認できていない (沼島産はシロヘリハンミョウではないのかという考え方もある)。

*: 兵庫県昆虫資料・285

1: 〒652 神戸市兵庫区氷室町 1-44

5. Family Carabidae オサムシ科 64種 (304)

前回の報告からすれば倍近くに増えている。前報文でアキオサムシとして先山産のヒメオサムシを紹介したが1993年に淡路島に産するものはアワジヒメオサムシ *Carabus japonicus awajensis* Imura, Dejima et Mizusawa, 1993 として記載された。Holotype, Paratypes 全部洲本市先山産である。筆者も先山で冬期採集で掘り出したことがある。先山での個体数はそれほど少ないとも思われない。今のところこの亜種は先山産が知られているだけのようである。淡路島には他にオオオサムシ、ヤコンオサムシも産する。このアワジヒメオサムシが先山にだけいる種なのかどうかもう少し調べる必要がありそうである。

オオヒョウタンゴミムシ *Scarites sulcatus* Olivier, 1795. 前報文で説明したように兵庫県の瀬戸内側海岸線沿いで分布が絶望的な現在淡路島での棲息が大いに期待される所であるが最近出版された”淡路島版レッド・データ・ブック第1集”によると南淡町での棲息もかなり心配な状況にあるようだ。

オノコロメクラチビゴミムシ *Trechiana onokoro* S. Uéno, 1983. 上野俊一博士によって淡路島南部産で新種記載されたゴミムシである。タイプの産地は Ayuya gawa Valley (洲本市鮎屋川), Nariaigawa Valley (三原町成相川) でももちろん淡路島特産種である。

カギモンミズギワゴミムシ *Bembidion poppu phohlat* Kirschenhofer, 1984. 前川和昭氏が安乎産 lex. を *Bembidion poppu* Netolitzky の学名で記録しておられる(1983)”日本産昆虫総目録 1.1989”によると前記学名になっている。今のところ兵庫県下での記録はこれがあるのみである。

ヤシロホソヒラタゴミムシ *Trephionus chujoi* Habu, 1961 が三原郡諭鶴羽山からある(久松, 1973. Habu, 1978)。今の所県下からはこの産地が知られているだけである。

6. Family Brachinidae ホソクビゴミムシ科 2種 (16)

今回新たに2種の記録が見られた。ともに兵庫県下に広く分布している種である。

7. Family Haliplidae コガシラミズムシ科 2種 (6)

1種増えている。

8. Family Dytiscidae ゲンゴロウ科 10種 (40)

前報より6種増えている。特に問題になる種は前報のスジゲンゴロウ以外無い。

9. Family Gyrinidae ミズスマシ科 3種 (7)

10. Family Hydrophidae ガムシ科 8種 (36)

前報より6種増えた。特に問題になる種はない。

11. Family Histeridae エンマムシ科 7種 (43)

12. Family Ptiliidae ムクゲキノコムシ科 2種 (2)

前報と変化はないが前回エビチャハバネムシの和名で紹介したもののエビチャムクゲキノコに変える。

13. Family Leiodidae タマキノコムシ科 2種 (17)

変わらない。但し前報で常隆寺山で採集した lex. をヒトツメタマキノコムシ *Liiodopris maculicollis* Nakane としたものはツヤマルタマキノコムシ *Agathidium sublaevigatum* Portevin, 1908 と同定すべきで此処に変更しておく。この種は県下に広く分布している。

14. Family Silphidae シテムシ科 8種 (17)

前報には記録がなかった。8種あるがどれも普通に見られるものである。

15. Family Staphylinidae ハネカクシ科 14種 (290)

前報とほぼ同じようなことで調査不充分的科である。

16. Family Pselaphidae アリツカムシ科 4種 (27)

17. Family Scaphidiidae デオキノコムシ科 1種 (28)

18. Family Lucanidae クワガタムシ科 8種 (17)

前報より 1種増えた。増えた 1種はマメクワガタ *Figulus punctatus* Waterhouse, 1873 である。この種は台湾から琉球列島、九州、対馬、四国の太平洋岸、本州では紀伊半島、伊豆諸島などに分布する種であり兵庫県下では沼島と家島の 2カ所が知られている。沼島に定着しているのか流木などによって運ばれたものかもう少し調べないとわからない。

19. Family Geotrupidae センチコガネ科 1種 (3)

20. Family Scarabaeidae コガネムシ科 56種 (151)

種類としては 10種ほど増えたが特に問題になる種はいないように思われる。前回ハラゲピロウドコガネ *Nipponoserica pubivetrus* Nomura, 1976 と報告したものの交尾器を詳しく調べて見た所 *Nipponoserica similis* (Lewis, 1895) カバイロピロウドコガネとすべきではないかと考えているが、材料が充分にないので今ひとつ自信がない。吹上浜にシロスジコガネ *Polyphylla albolineata* (Motschulsky, 1861) を多く産すると報告されていたが、現在どのような状況なのか最近の情報を知らない。兵庫県全般であまり採集されていない種のようなのである。

21. Family Ptilodactylidae ナガハナノミ科 1種 (7)

22. Family Psephenidae ヒラタドロムシ科 1種 (7)

23. Family Buprestidae タマムシ科 12種 (81)

24. Family Elateridae コメツキムシ科 16種 (136)

25. Family Troscidae ヒゲブトコメツキ科 1種 (3)

26. Family Eucnemidae コメツキダマシ科 1種 (15)

27. Family Ometheidae ホタルモドキ科 1種 (2)

28. Family Cantharidae ショウカイボン科 9種 (40)

29. Family Lycidae ベニボタル科 1種 (36)

30. Family Dermetidae カツオブシムシ科 3種 (16)

31. Family Anobiidae シバンムシ科 3種 (18)

前報と変わりはない。前報で述べたようにセスジタワラシバンムシ *Holcobius japonicus* (Pic. 1903), ツガタケミゾキノコシバンムシ *Mizodorcatoma pinicola* (N. Hayashi, 1951) の 2種はその後も兵庫県下での記録は見られず、淡路島(先山, 三熊山)からのみ知られている種である。

32. Family Ptinidae ヒョウホンムシ科 2種 (4)

33. Family Trogostidae コクヌスト科 1種 (5)

34. Family Melyridae ショウカイモドキ科 2種 (12)

何れも新たに記録されたものであるが、ごく普通に産するものばかりである。

35. Family Nitidulidae ケシキスイ科 14種 (87)

2種増える。淡路島からのみ記録されている種はウスチャデオキスイ *Carpophilus freemani* Dobson, 1956 (三原郡福良)のみとなった。

36. Family Cybocephalidae タマキスイ科 1種 (1)

37. Family Phalacridae ヒメハナムシ科 1種 (13)

38. Family Cucujidae ヒラタムシ科 1種 (14)

39. Family Silvanidae ホソヒラタムシ科 5種 (1)
40. Family Cryptophagidae キスイムシ科 3種 (16)
41. Family Helotidae オオキスイムシ科 1種 (2)
42. Family Biphyllidae ムクゲキスイムシ科 1種 (8)
43. Family Languriidae コメツキモドキ科 1種 (9)
44. Family Erotylidae オオキノコムシ科 1種 (31)
45. Family Corylophidae ミジンムシ科 2種 (7)
 以上何れも前報以後追加種を知らない。
46. Family Endomychidae テントウダマシ科 4種 (9)
 前報より2種増えたがいずれも一般的に知られている2種とやや個体数が少ない種と考えられるクリバネツヤテントウダマシ *Lycoperdina gorhami* (Lewis, 1874) 淡路島以外県下では神戸市の産が知られている位である。また久松博士が福良から記録されている *Geoendomychus* sp. も注目しなくてはいけない。
47. Family Coccinellidae テントウムシ科 18種 (73)
 2種増えたが特に珍しいものではない。前回述べたようにムモンヒメテントウ *Nephus kompirasanus* (H. Kamiya, 1961) は県下では淡路島だけの産が知られている種であるが、今ひとつのオニヒメテントウ *Scymnus (Pullus) gigantus* H. Kamiya, 1961 の方は神戸市内でも最近採集できている。
48. Family Discolomidae ミジンムシダマシ科 1種 (2)
49. Family Lathridiidae ヒメマキムシ科 5種 (13)
 ウスケシマキムシ *Corticaria japonica* Reitter, 1877 福良 (久松, 1973) は県下からはこの記録があるだけ。
Melanophthalma distinguenda (Comolli) も福良 (久松, 1973) から記録があるが、こちらは県下では宍粟郡音水からの記録がある。
50. Family Mycetophagidae コキノコムシ科 1種 (3)
51. Family Cisidae ツツキノコムシ科 1種 (13)
52. Family Tenebrionidae ゴミムシダマシ科 25種 (93)
 大きく増加している。主として海岸線沿いの砂地などにいる種が増加した。前報で原記載以後阿万西町での記録しか知らないとしておいたニセハマヒョウタンゴミムシ *Idisia vestita* Marseul, 1876 はその後明石市林崎でも採集できた。
 ホソハマベゴミムシダマシ *Micropedinus algae* Lewis, 1894 原記載の Kobe 以後産地が知られていなかったが、慶野松原で筆者は採集した。
 セスジユミアシゴミムシダマシ *Promethis striatipennis* (Lewis, 1894) やや中型のゴミムシダマシで本州、九州に分布している種である。煙島で採集されているが (登日, 1982) 県下での記録はこれのみである。
53. Family Lagriidae ハムシダマシ科 4種 (8)
54. Family Alleculidae クチキムシ科 2種 (16)
55. Family Prostomidae デバヒラタムシ科 1種 (1)
 デバヒラタムシ *Prostomis latoris* Reitter, 1889 が先山から記録されている (堀田, 1978) 今のところ県下での記録はこれがあるだけである。
56. Family Salpingidae チビキカワムシ科 1種 (6)
57. Family Melanodryidae ナガクチキムシ科 1種 (47)
58. Family Mordellidae ハナノミ科 3種 (52)

59. Family Rhipiphoridae オオハナノミ科 1種 (4)
60. Family Meloidae ツチハンミョウ科 3種 (6)
ヒラズゲンセイ *Cissites cephalotes* (Olivier, 1795) が洲本市金屋から記録されている (登日, 1980)。この種は南方系種で本州からは和歌山県 (紀伊半島)、兵庫県の産地が知られているだけである。兵庫県からはこの洲本市以外に神戸市北区藍那、明石市明石城内、三木市 (分布の北限) で記録がある。
61. Family Oedemeridae カミキリモドキ科 4種 (21)
フタイロカミキリモドキ *Oedemeronia serularis* (Marseul, 1876) が洲本市由良町から記録されている (堀田, 1978)。本種も南方系種で兵庫県下からは他に家島の記録がある (畑中, 辻, 1974)。
62. Family Anthicidae アリモドキ科 4種 (28)
63. Family Aderidae ニセクビボソムシ科 1種 (6)
64. Family Cerambycidae カミキリムシ科 93種 (290)
大きく増えている。キイロミヤマカミキリ *Margites fulvidus* (Pascoe, 1858) が洲本市先山から記録されている (金田, 1978)。南方系の種であり兵庫県下では神戸市御影 (関, 1941) と北区藍那で記録並びに採集されているだけである。前報で説明したトゲヒゲトビイロカミキリ、チャイロヒメカミキリはその後の進展がない。
ツチイロフトヒゲカミキリ *Dolophrads terrenus* Bates, 1884 が諭鶴羽山、洲本市先山から記録されている (田村, 田村, 1988)。クロオビトゲムネカミキリ *Sciades fasciatus* (Matsushita, 1943) は分布地に淡路島が出ている (日本産カミキリ大図鑑, p.504, 1984) 具体的な産地がわからない。県下では城崎郡香住 (高橋, 1976) というのがある。
ヒメナガヒメルリカミキリ *Praolia citrinipes*, 1884 が洲本市先山から記録されている (金田, 1980)。県下での記録はこれのみと考えられる。
65. Family Chrysomelidae ハムシ科 101種 (295)
ハムシ科は淡路島では割合と良く調べられているグループのようである。次の種は淡路島以外での産地はあるがいずれにしてもあまり産地の知られていない種である。トゲアシクビボソハムシ *Lema coronata* Baly, 1873。ムラサキアシナガトビハムシ *Longitarsus boraginicolus* Ohno, 1868 (本種のバラタイプに鮎屋産がある)。コミヤアシナガトビハムシ *Longitarsus komiyai* Ohno, 1968。ハツカアシナガトビハムシ *Longitarsus nipponensis* (Siki, 1938)。ウスグロヒゲナガカミナリハムシ *Oglolinia flavicornis* (Baly, 1874)。前報で兵庫県下で淡路島のみとして報告したヘリグロタマノミハムシ *Sphaeroderma ohkuboii* Chujo, 1940。シリダコグミトビハムシ *Zipanginia tuberosa* Ohno, 1964 の2種に加えて筆者が松帆の浦で採集したスイバトビハムシ *Mantura clavoreau* Heikertinger, 1921 も今の所県下では淡路島以外に知られていない。
66. Family Anthribidae ヒゲナガゾウムシ科 1種 (44)
67. Family Attelabidae オトシブミ科 10種 (55)
68. Family Apionidae ホソクチゾウムシ科 3種 (19)
ケブカホソクチゾウムシ *Apion griscopubesens* Roelof, 1874 は福良から記録されていて (宮武, 1973)、現在でも県下で他の記録が見られない。
69. Family Curculionidae ソウムシ科 41種 (263)
アルファルファタコソウムシ *Hypera postica* (Gyllenhal, 1813) は洲本市緑町、津名町、三原町、西淡町、五色町、一宮町と淡路島には多くの産地が知られている (藤富, 1990) のにもかかわらず県下の本州側では全く記録がない。同属のオオタ

コゾウムシ *Hypera punctatus* (Fabricius, 1775) はごく最近神戸市、三田市に多く見られているがこちらは現在日本では兵庫県産のみのものである。

ミスジマルゾウムシ *Phaeopholus ornatus* Roelofs, 1873 も三原郡福原の記録があるが(宮武, 1973) こちらも今の所県下での産はこれ以外知られていない。クスアナキゾウムシ *Dyscerus orientalis* (Motschulsky, 1866) も洲本市先山(堀田, 1975)での記録以外県下での記録は見られない。

70. Family Rhychophoridae オサゾウムシ科 4種 (15)

71. Family Scolytidae キクイムシ科 1種 (47)

以上淡路島産の甲虫類として現在わかっているのは71科616種である。これに見合う兵庫県産の種類は71科3,037種ということになる。現在筆者の手元にまとめられている兵庫県産甲虫類というのは113科3,199種(科数、種数が違うのは兵庫県には淡路島から記録が無い科並びにそれに属する種がいるからである)。

前にものべたが兵庫県産甲虫類の約20%程度が淡路島から記録されていることになるがこれらの数字は大変流動的であって調査が進めばさらに変化するであろうと考えられる。ただ基本的にはこのような傾向は変わらないのかとも思われる。

淡路島の甲虫相概観

淡路島の甲虫相はその産出記録の数からだけ見た場合、面積が県全体の5.8%位しかないことからすれば種類数は必ずしも少ないとは考えられないが、地上性の種、落葉下とかに生息している種の調査が不十分だということはいくわたり、そういった方面の調査ができたらもっと種類数が増えるであろうことからすれば面積の割りからすれば甲虫類は結構多くいるような印象を受ける。島内最高峰諭鶴羽山で海拔608m、常隆寺山で515m、先山448mで見られるように高い山が無いことは森林性のものが大変少ないのではないか、例えばカミキリムシ類のハナカミキリの仲間とかコメツキムシ科、オオキノコムシ科、ナガクチキムシ科、アカハネムシ科、ヒゲナガゾウムシ科などの甲虫記録がほとんど見られない、反面周囲が海に囲まれていることから海浜性、砂地等に棲息する種が多いということも淡路島甲虫相の大きな特徴だと思われる。オオヒョウタンゴミムシとかシロスジコガネ、スナゴミムシダマシ類などが豊富である。また全般からすれば南方系のものが多いようである。セスジユミアシゴミムシダマシ、ヒラズゲンセイ、フタイロカミキリモドキ、キイロミヤマカミキリなどを産することでもうかがえる。

現在の兵庫県産甲虫類の中で淡路島からのみ記録のある種は37種である。

前にのべたように未調査のグループを調べればまだまだその産出数は増加してくるであろうと思われるが、反面開発の方はかなりのスピードで進んでいる。特に海岸線の破壊はひどいようであり、そういった意味からすれば淡路島の甲虫相も変わりつつあるともいえそうである。

(たかはし としお)